



都市整備

森園公園再整備計画に

市民の声を生かそう

伊川 京子 議員

Q 現在、再整備計画検討委員会で基本計画が検討されている。その基本的なコンセプトからは利用者目線に沿った構想が見えてこないがどのように考えているのかまた、以前から子ども遊具に関する要望やその他にも様々な指摘がなされている。基本計画には広く市民の音が反映されるべきである。市民の意見を聴く機会についてどう考えるか。

A 森園公園再整備計画については、各分野の代表からなる再整備計画検討委員会を組織し、基本計画の検討を行っている。しかし、検討委員会には限られた市民しか入っておらず、パブリックコメントを実施しても意見が少ないという中で、基本的な構想を決める前に、市民の声を聴く機会を何らかの形でつくりたいと思う。

国道34号拡幅整備全線 早期実現を目指して

永尾 高直 議員

Q 本年10月27日、大村の未来のために「国道34号大村〜諫早間の早期整備を目指すシンポジウム」が、多くの市民の皆様の参加のもと開催され、大変盛り上がりがあった。このシンポジウムを一つの契機とし、さらに市民の機運を高めるために早期実現を目指して「総決起大会」を開く考えはないかお尋ねしたい。

A 総決起大会の開催については、今後適切な時期を見計らって、ぜひとも開催をしたいと思っているので、議会を初め市民の皆様方のご支援をお願いしたいと思う。

大村市のグランドデザイン を考えるべき

園田 裕史 議員

Q 現在協議されている新幹線新駅周辺整備事業において、老朽化した市役所本庁舎の位置付けが全く議論されていないことは大きな問題である。そこで、現在のろう学校に市役所本庁舎を移転することで、空港からインターチェ

ンジまでのラインに官公庁を集約した都市機能とし、将来的な財政負担の軽減を図ることを提案する。

A 新幹線新駅周辺の1万3,000坪程度の土地も選択肢の一つであるが、現在地もまったく無視できない。また、市街地再開発との関係もある。議会、市民の声を聴きながら、平成26年度から27年度にかけてある程度の方向付けをすべきであると考えている。

三城地区の新幹線トンネル の地元対策を

村上 信行 議員

Q 三城地区を通る新幹線は当初、開削であったが、昨年、三城城跡遺跡保存のためトンネルに設計変更となった。地区住民の生活環境は大幅に変化し、将来にわたる不安な地元で誠意を示す必要がある。市道付替え、歩道、雨水幹線、用排水路、河川管理道路、公民館通路、保安灯など住民生活の環境保持のために住民の要望を聞き、設計に十分反映するべきである。

A 新幹線の問題で、三城地区の住民の方には計画の変更等があり、大変ご迷惑をおかけした。地域の生活環境や安全性

の問題を含め、地元住民の立場に立って、要望を受け止め、今後、鉄道・運輸機構にはしっかりと働きかけていきたい。

自転車走行帯の整備

UNSN

山口 弘宣 議員

Q 12月1日付けで道路交通法が改正され、軽車両と規定されている自転車についても道路走行上の義務や罰則が明確化された。そこで道路上の歩道の広い所においては、進行方向にある歩道にカラー舗装等をして自転車走行レーンを設置し、かつ自転車一方通行の路面標示を行い、自転車利用者に習慣化を促す取組みも必要と考えるが見解を問う。

A 歩道を自転車が行く場合の一方通行規制については、現在も法律上、相互通行が認められており、地域住民の合意が必要である。今後、市で自転車走行空間の整備を行う際は、地域住民の方と十分協議を行っていきたいと考えている。